

日本キリスト教会 大阪北教会

2018年2月4(日) 聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 マタイによる福音書10章26節～31節

10:26「人々を恐れてはならない。覆われているもので現されないものはなく、隠されているもので知られずに済むものはないからである。10:27 わたしが暗闇であなたがたに言うことを、明るみで言いなさい。耳打ちされたことを、屋根の上で言い広めなさい。10:28 体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい。10:29 二羽の雀が一アサリオンで売られているではないか。だが、その一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。10:30 あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。10:31 だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。」

説教『恐れるな！ 神は必ず、道を開かれる。』

◆只今、先週の教会総会で新たに長老・執事に選ばれた兄弟姉妹の任職式を行ないました。その式において、「誓約」がなされ、勧告もありましたので、今日は、説教を省略して、このまま「聖餐式」に進んでもよいのではないかと思います。私たち各自も、洗礼の時、信仰告白の時に為した誓約、また長老、執事への任職に際して行った誓約を、今一度、想起し、私たち各自の日常生活が、御栄えを汚すことなく、むしろ御栄光を現すものであるよう思いを新たにしようではありませんか。

◆実は、先週は多忙な週になりました。水曜日の炊き出しについては、皆さんも週報によってご承知ですが、実は火曜日の午後2時半から4時半頃迄、韓国・東水原教会の青年たち30名の訪問を受けました。そして水曜日が炊き出しで、今度は金曜日に、中国の基督者婦人2名の訪問を受けました。土曜日にはフードバンク関西さんがいつものように、炊き出しの為の食材を沢山届けて下さいました。そのような次第で、前週の教会総会に続いて、忙しい週になりましたが、結果的にはとても祝された時を持つことができました。

◆これは『教会案内』ですが、ここに会堂3階のステンドグラス『ヤハウエ・イルエ』（「神は備えてくださる」）が綺麗に入っています。この『教会案内』を東水原教会の青年たちにも、中国の姉妹達にもお渡しして見てもらいました。なぜなら、この火曜日と金曜日の両国の兄弟姉妹の思いがけない来訪は主が備えて下さったものと思えたからです。そして、実際の交わりは予想を越えた、祝されたものでした。日韓両国、日中両国には、容易に解消できない歴史的な禍根、罪責があります。日本は両国に対しては加害国なのです。そのような両国の基督者の訪問を受け、主にある兄弟姉妹としての交わりを許されるということは、神様だけがもたらして下さる憐れみ、赦し、和解であります。一緒に「主われを愛す」を歌い、そしてこの礼拝堂の前に立っている<Christmas Tree for Peace!>にも、皆さん心を込めて、ハングルで、中国語で、平和への祈り・願いを短冊に書いてかけて下さいました。

『ヤハウエ・イルエ』（「神は備えてくださる」）は文字通り本当なのです。今日の説教題を『恐れるな！ 神は必ず、道を開かれる』としたのですが、これは本当ですね。「ヤーハウエ・イルエ」の御言葉を想起すれば、わたしたちのすべての恐れ、不安は解消いたします。

◆さて今日与えられた御言葉ですが、何と頼もしい、有難い御言葉でありませうか。私達は毎週の礼拝において神様の御言葉、主イエス様の御言葉を頂きます。しかし、私達が今日与えられた御言葉は今日一日だけの御言葉ではありません。今日一日、今週一杯、今月中、今年一杯、一生、否、死の時も、死の後も、地獄に墮ちても、わたしたちが頼みとし得る御言葉であります。何と頼もしく有難い御言葉でありませうか。主イエス様の御言葉は、どの一つも、その御人格の中枢から発せられた御言葉であります。十字架と復活の主イエス様の御言葉なのです。主イエス様の一言は、その全言と一体なのです。今日の御言葉を魂に刻んで、これからの全ての日々を歩んでまいりませう。

◆今日、わたしたちが聖書を通してお聞きする主イエス様の御言葉は、御独り子主イエス様をさえ、わたしたちの救いの為に賜った父なる神様の絶対の御守りの中に、私たちが、常に・永久におかれてあるという御約束の御言葉であります。わたしたちキリスト者の信仰とは、このイエス様の御言葉が本当だ、真実だと信じて、この御言葉の主イエス様に、日々の生活のこと、この身と魂に関わる一切合切のことを、父なる神様の御配慮にお任せすることです。

◆先ほど一緒に歌いました讃美歌469番の「善き力にわれ囲まれ」は、あのディートリッヒ・ボンヘッファーの作詞です。ボンヘッファーは39歳で、ドイツ降伏直前の1945年4月9日、処刑を急ぐ国家社会主義ドイツ労働者党（ナチ党）により、フロッセンビュルク強制収容所で死刑になった殉教者です。それは、1945年4月30日、総統アドルフ・ヒトラーが総統地下壕の一室で自殺するわずか3週間前の事でした。獄中のボンヘッファーの様子については、獄の医務官が、「それは、まるで王のように自由な立ち居振る舞いであった。私はそのような囚人の姿に接したことはありません」と証言しています。ボンヘッファーは、今日の聖書の御言葉の主イエス様と共に獄にあったのですね。

◆10章29節以下にこのようにあります。「二羽の雀が一アサリオンで売られているではないか。だが、その一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。」当時、雀は一番安価な食肉だったと言われます。しかし「その一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない」とイエス様は言われます。続いて「あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている」と。日本人の髪の毛は平均100万本だそうです。そして、1日100本抜けるそうです。イエス様は「あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている」と、父なる神様の細やかな御配慮を語っておられます。このような肉と魂に関わる絶対の御配慮の許にわたしたちの今があるのです。それ故に、人々を恐れてはならないのです。恐れるべきは、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる御方のみです。そして、父なる神様のお許しがなければ、私たちの髪の毛一本も地に落ちることはない、イエス様は確約して下さるのです。

◆今日も日曜学校で、またあのザアカイ物語を読みました。ルカによる福音書19章1～10節です。「ザアカイ」という名は「ゼカリヤ」或いは「ザカリア」の砕けた表現で、意味は「神様は覚えて下さる」ということです。ザアカイ物語の最後にも、イエス様の確言の御言葉があります。「わたしは、失われた者を捜して救うために来たのである。」この「失われた者」という言葉は、直訳すれば、「完全に滅んだ者」ということです。主イエス様は、完全に滅んだ者をも、捜して救い上げて下さる

のです。「善き力に守られつつ、来るべき時を待とう。夜も朝も、いつも神は、我らと共にいます。」（「善き力にわれ囲まれ」の5番。）正に、「魂も体も地獄で滅ぼすことのできる御方」が、私のような滅びに価するものを、とことん顧みて下さるとのイエス様の御言葉です。

◆第二次世界大戦の最中、ドイツの教会を支えた信仰告白に『バルメン宣言』（正式名称『ドイツ福音主義教会の現状に関する神学的宣言』）があります。わずか6項目からなる簡単な信仰告白です。その第一項は、こうです。「聖書においてわれわれに証しされているイエス・キリストは、われわれが聞くべき、またわれわれが生と死において信頼し服従すべき神の唯一の御言葉である。」簡略ですが、私達キリスト者が常に立つべき信仰の根幹を言い尽くしております。そして、神様の唯一の御言葉であられる主イエス様が、今日の御言葉の主であります。こう言われます。「体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい。二羽の雀が一アサリオンで売られているのではないか。だが、その一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている」と。

◆今日はじめに、先週火曜日の韓国・東水原教会の青年方の来訪と、金曜日の中国の基督者姉妹の訪問のことをお話し致しました。私にとっては実に有意義な時になったのですが、両日とも、別れ際に「主われを愛す」の讃美歌を一緒に歌いました。ハンガルと中国語と日本語で。「主われを愛す。主は強ければ、われ弱くとも恐れはあらず。わが主イエス、わが主イエス、わが主イエス、われを愛す」と。特に印象的だったのは、韓国の青年たちも、特に中国の若い29歳の岳秋函姉は、まるで少女のように、身体を左右に揺らしながら、万面の笑みで、「わが主イエス、われを愛す」と歌う姿です。岳秋函姉の来訪の目的は、彼女は若い文筆家なのですが、中国で小川武満牧師の自伝的書物『地鳴り』の中国訳を読み、非常な興味を与えられ、今度は、小川牧師の『伝記』を書くための取材旅行だったのです。小川武満牧師は、中国生まれ、中国の医科大学を卒業された軍医で、牧師になった方です。この大阪北教会の戦後最初の牧師で、終生、日本の戦争責任・罪責を身に負って歩まれた方です。

◆しかし、東水原教会の引率の長老さんからも、岳さんからも別れ際に真顔で「何故、日本ではクリスチャンが増えないのですか？」と同じ質問を受けました。私は東京時代、小川先生と一緒に取り組んだ「靖国法案反対闘争」の事を思い出しながら、「日本では、歴史伝統との軋轢があり、今でも天皇制はタブーなのです」と言いました。そして「私を始め、私達日本の基督者が、本気で、全身全霊で、神様の御愛、御恵み、御赦しを信じて生きていないからです」と答えるほかありませんでした。

◆今日、私達に与えられた、主イエス様の御言葉は、そのような私たちを知り抜いておられるイエス様が、私たちに下さった峻厳な御言葉ではないでしょうか。戦前・戦中の日本の教会は「国体・国家体制」に屈服して、妥協して、通り過ぎてしまったのです。そのような教会の末裔である私たちに、主イエス様は言われます。「体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい。二羽の雀が一アサリオンで売られているのではないか。だが、その一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている」と。何と恐れ多く、頼もしく、憐れみ深く、有難い御言葉でしょうか。この御言

葉を、肝に銘じ、一日一日、時々刻々歩んでまいりたく思います。

◆最後に<Christmas Tree for Peace!>について、お話ししたいと思います。昨年のクリスマスに続いて、牧師の発案で、<Christmas Tree for Peace!>を行なうことになりました。そして、週報の諸報告欄に毎週（<Christmas Tree for Peace!>について。礼拝堂のクリスマスツリーに「世界平和への祈り・願い」を短冊に一筆お書き下さってお掛け下さい）と掲示して、1月も過ぎ2月に入りました。そして、先程来ご報告しております韓国・中国の基督者の来訪のことですが、これは思いがけない来訪でした。しかし私は、両国の基督者に、この<Christmas Tree for Peace!>の由来を説明し、参加を求めました。すると皆さん熱心に書い下さって平和への祈り・願いの短冊架けてくれました。

◆中国の岳秋函さんがツリーに駆け難そうにしているので手伝ってあげました。そして、別れたあと、短冊の架けるバランスを整えて、見るともなしに岳さんの短冊を手にとってみると、英語と漢字で凡そ次のように記されていました。『皆さんと共に神様が共におられますように。天の父なる神様、願わくば中・日・韓三国の弟兄姉妹を用いて、世界に平和をもたらして下さい。願わくば、中日間に永遠の平和を！』とありました。そして、岳秋函姉は短冊を架けた後、満面の笑みをたたえて、両手を広げ、私をハグしてくれたのです。岳さんは29歳ですから、私の孫の世代です。でもお祖母ちゃんが孫を胸に包み込み、慈しみを込めて抱き占めるように、抱きしめてくれたのです。謝罪と赦罪の抱擁！このようなことは、<Christmas Tree for Peace!>が、ここに立っていなければ、起らなかったことかもしれません。誠に<ヤハウエ・イルエ!>ですね。本当に、髪の毛、一本までも残らず数えられているのです。今日、私たちに与えられた主イエス様の御言葉は、本当に、『われわれが聞くべき、またわれわれが生と死において信頼し服従すべき神の唯一の御言葉』なんですね。

◆この年も、色々な思いがけない事が、教会にも、私達各自の身にも起こるであります。しかし、常に、私達を顧み、共にいます主イエス様を拝しつつ、今日の御言葉を心に刻み、新しい歩みを進めてまいりましょう。体は殺せても、魂を殺すことのできない者を恐れることはないのです。魂も体も地獄で滅ぼすことのできる御方をこそ、恐れ畏みつつ、信仰から信仰へと歩んでまいりましょう。

◆お祈りいたします。

憐れみに富み給う主イエス・キリストの父なる神様。今年度の教会総会を終え、新たに長老・執事の弟兄姉妹を与えられ、新たなる感謝をもって、あなたを礼拝できます幸いを心から感謝いたします。本当にあなたは、私達を愛し、顧みて下さることを新たに覚え、心から感謝いたします。どうか私たちが、このわが身に関わる一切のことを、あなたが御独り子をさえ惜しまず賜わるほどの御愛をもって、常に、永久に、顧みて下さることを信じ、信頼と感謝の内に歩ませてください。どうか、この身が弱り、衰えようとも、常に魂の平安を与えられ、基督者の幸いの内にあらせてください。どうか、私達各自が、私達大阪北教会が、その置かれたところで、あなたの御恵みと御愛を証しし、平和を造り出すものとして下さい。どうか今日賜りました、主・イエス様の御言葉を、心に刻んで、この年の歩みを怠りなく、歩ませて下さい。どうか、韓国の弟兄姉妹達、中国の弟兄姉妹達、両国をはじめ世界に平和がなりますように、私達を憐れみ、導いて下さい。この祈り、主イエス様の御名を通し、御前にお捧げいたします。アーメン。